

第1学年 道徳科学習指導案

第1学年2組 29名
指導者 明石 伊記

1 主題名 たいせつな いのち

D- (17) 生命の尊さ	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。
------------------	----------------------------

2 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

生命を大切にすることは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言える。ここでいう生命は、生命の連続性や有限性を有する生物的・身体的生命として捉えている。主として人間の生命の尊さについて考えを深めることが中心になるが、生きているもの全ての生命についても考えなければならない。自己との関わりの中で、生きることのすばらしさを考え自覚を深めるとともに、生命は唯一無二であることや、自分一人のものでなく多くの人々の支えによって守り育てられていることが分かり、自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は明るく友達に接し、困っている友達を見つけると、進んで声をかける優しい姿が見られるようになってきた。また、生活科で育てたあさがおには、命あるものとして接し、毎日欠かさず水をやり「大きくなってね。」「あさがおさんありがとう。」などと声をかけ、あさがおが成長することに大きな喜びを感じていた。さらに、道徳科『みんなみんないきている』の学習では、生きることのすばらしさを知り、自分のかけがえのない命を大切にしていこうとする心情を育んできた。本時の学習では、自分の命だけでなく、自分と同じくらい大切な命を周りの人も持っていることに気づき、自分の命と同じように周りにある命を大切にしようとする心情を育てたい。

(3) 教材について

(教材名「わきだした みず」)

出典：小学 道徳 豊かな心 光文書院
池の水が干上がり、魚たちが苦しんでいる様子を見たかには、隣の村の泉まで穴を掘り進めることを決める。途中、大きな石にぶつかるが魚たちが苦しんでいる様子を思い出し、一層力を入れて昼夜を問わず穴を掘り続ける。かにはとうとう泉まで掘り通し、水が池まで流れ出し池の生き物や動物たちは跳ね上がって喜ぶという話である。必死に穴を掘り進めるかにはの姿から、何としても魚たちの命を救いたいという強い心が見える。水が流れ出て喜ぶかにはの姿から、他者の命も自分の命と同様に大切にすることのすばらしさを感じることで、ねらいとする価値に迫りたい。

(4) 主体的に考え、伝え合い、響き合うための工夫

かにはが一生懸命に穴を掘り続けている姿を役割演技（再現劇）ですることによって岩にぶつかった時の気持ちを自分事として考える。さらに、「疲れたでしょ、やめちゃえば。」などと教師が揺さぶることで、かにはの思いを実感し、理解する。諦めず頑張るかにはの姿を見てどう思ったか、学級全体にも聞くことで多面的に考えることができるようにする。

タブレットを使って、水が流れて助かった魚たちの様子を見た時のかにはの気持ちを色で表し、電子黒板で全員の考えを表示することで、誰がどの色なのか明らかにする。その上で全体での話し合いを取り入れ、どうしてこの色だと思ったのか理由をつけて伝えるとともに、友達の意見を聞いて、じっくりと自分で考え、命を助けようとする行為の良さを実感できるようにする。

3 本時の学習

(1) ねらい

大変な中、穴を掘り続けるかにかの気持ちを考えることを通して、命を助けようとする行為のよさを感じさせ、自他の命を大切にしていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 前時の学習を振り返り、命について考える。	○命を大切にしていますか。 ・している。	○消防士が人を助けている動画を見せることで、命について考えることを意識できるようにする。
		いのちのたいせつさについて かんがえよう	
展開	2 教材「わきだしたみず」の話を聞き、命について考える。 (1) 水が少なくなってきた苦んでいる魚たちの気持ちを考える。 (2) 疲れても休まずに掘り続けているかにかの気持ちを考える。 (3) 水が流れて喜ぶかにかの気持ちを考える。	○池の魚たちは、どんなことを思っていたでしょう。 ・助けてほしいよ。 ・このままだと死んでしまう。 ◎かにかさんはどうして一生懸命掘り続けたのでしょうか。 ・死んでほしくないから。 ・頑張ってみんなを助けたいから。 ・僕にしか助けることはできないから。 ○水が流れて助かった魚たちの様子を見て、かにかさんはどんな気持ちになったでしょう。 ・助けることができてよかった。 ・頑張ってた良かった。	○黒板シアターで資料提示をすることで、かにかの気持ちに迫ることができるようにする。 ○挿絵から、魚が困っている様子やかにかにしか助けることができないという状況に気付くことができるようにする。 ○役割演技（再現劇）をすることで、穴を掘り進める大変な思いに気付くことができるようにする。また、「疲れたでしょ、やめちゃえば。」などと教師が揺さぶることで、かにかの何とかして助けていたいという強い思いに気付くことができるようにする。 ○タブレットを使って、かにかの心の色を可視化し、一生懸命頑張ったかにかの気持ちに気付くことができるようにする。
	3 これからの生活を考える。	○自分や友達の命を大切にするために、どんなことができるでしょう。 ・交通安全に気をつける。 ・けがをしている子を見つけたら、助ける。	○これまでの経験を思い出すことで、これからの生活について考えることができるようにする。 ☆命に対する自分の考えを深め、自他の命を大切にしていこうとする思いをもっているか。 (発言、ワークシート)
終末	4 本時のまとめをする。	○保健室の先生からのメッセージを聞きましょう。	○学校で子どもたちの命を守るために働いてくれている、養護教諭からのビデオメッセージを見ることが、自分たちの身近にも命を守るために行動してくれている人がいることを実感できるようにする。

